

タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して

日時 平成26年9月7日（日） 10時00分～11時30分

会場 元福岡集会所（元福岡2丁目）

天気 雨

参加者 45人



### 主な意見等

参加者 最近水害が多数発生しています。元福岡の最大の関心は水害です。7、8年前のゲリラ豪雨によって、あっという間に一帯が冠水し、床下床上浸水が発生しました。当時の自治会長が市の土木職員と今後の対策について話し合いました。恒久対策は、国と県が実施する新河岸川の橋の付け替えと川の拡幅工事であるということでした。しかし、まだまだ実施には時間がかかるということで、応急対策として2カ所ポンプを設置しております。その後、2回浸水を経験しました。1回目はポンプの保守員が電源を入れ忘れたためでした。2回目は去年の台風で発生したが原因がわからないとのことでした。これでは解決していないといえます。安心できる街づくりのためなんとかお願いします。

市長 地域の水害問題は元福岡の第一の課題です。先ほどおっしゃられた橋の付け替え、川の拡幅についてですが正直それだけでは解決することが難しいです。最終最大のテーマは川越江川へのポンプの取り付けである。しかし、ふじみ野市単独では難しい事業です。そこで、大きな課題を解決するために埼玉県と河川下水道事業調整協議会を設立しました。具体的にどのように解決すればいいかを調整協議会にて検討調整しています。

今のふじみ野市の取り組みは下流に流れ込む前に上流で貯留する対策を考えています。関越自動車道の西側付近の水がこちらに流れ込んでくるため、大井西中学校付近に遊水池を造る計画を進めています。さらに同様の遊水池を2カ所造りたいと考えています。また、ビバホーム周辺に貯水槽を造り、今年も1カ所造っています。さらに、市の皆様に協力いただいて県の費用にて浸透枘を各地に造っていただいています。上流の各地域に説明を行いまし

て、協力していただける方が増えています。少しずつ改善を行っている状況です。

参加者 元福岡への水害対策はご説明の取り組みだけでは解消しないのではないのでしょうか？ 実際、ゲリラ豪雨が発生するたびに消防車や消防団の方などが排水作業をしています。これが毎年繰り返しています。

できるだけ早く見える形で対策を実施してください。みなさんの命と財産を守るという意味でも早急な対策をお願いします。

市長 根本の対策としてはポンプアップだと考えています。川越江川の流量が増加してしまうということは新河岸川に流れ込まないということになります。そのためポンプアップが必要です。そのためには法制度や費用面にてさまざまな課題があり、すぐに進んでいない状況です。広島では80ミリを超える雨が降りました。かつて都市整備を行ったとき、そのような規模の想定をしていませんでした。しかし、元福岡一番の課題として力を入れてさまざまな対策を考えていきます。

参加者 大雨が降るたびに床下に浸水しています。ポンプが設置されていますがどのくらいの雨量に対応できるもののでしょうか？また、ふじみ野市の避難勧告指示は適切なマニュアルが用意されているのでしょうか？

市長 今用意しているポンプの許容量を超えてしまうと対応できないのはご指摘の通りです。時間雨量にして30ミリ～35ミリが現在のポンプの許容量になっています。避難勧告指示について、先日、山口県防府市長の体験談を聞きました。夜中に警報が出てしまった時、外に出たほうが危険ということがあります。このような場合もございますのでマニュアル通りの対応が正しいとはいえないことがあります。避難指示についてどのタイミングで出すか慎重に検討しています。

最終的には新河岸川に流し込むポンプを設置することによって解消しますが、いつまでに設置できるかはお答えが難しい状況です。基礎自治体である市は法律に則って市政を行っています。しかし、何かを救済するために施策を実行しようとしても国の制度が障害となり、実施できないということが何度もあります。国にこのような制度を変えてもらう必要があります。ふじみ野市では特別養護老人ホームの充足に力を入れています。しかし、入居待ちの人が増えています。それは、市内の人間が優先されず、介護の必要性が高い人が優先的に入っています。ふじみ野市に施設を造るのですから、ふじみ野市の住民を優先してもらえよう厚生労働省や施設に求めています。

また、サービス付き高齢者住宅がありますが、1部屋当たり100万円の補助が入ってきます。それですから事業者はどんどん部屋を造りたいと考え

ています。しかし、施設のある自治体の負担は大きいので、住所地特例がつくように国土交通大臣に訴えました。甲斐あって来年度から実現します。

川越江川は河川ではなく都市下水路であるため国の支援が受けられません。しかし、雨水処理という視点で地域の問題の解決のために国が支援をしてくれるよう国土交通省に求めてまいります。また、近隣の川越市にも協力を求め解決を図っていきます。新河岸川へのポンプ設置実現に向けて最大限の努力をしてまいります。

なお、川越江川の水量がどういう状況にあるかという調査を本年度中に実施します。

参加者 川越江川の水害に対する抜本的な解決策は過去に県から提示されています。市には周辺の市町村に働きかけをおこなってもらいポンプの設置を急いでもらいたい。地域の水害を解決できるよう市と私たちとの情報連携を密に行ってほしいです。また、防災無線が聞こえにくく現在の状況が分からない。聞こえる防災無線を設置してほしい。元福岡地区としては命を守ることに市として力を注いでほしいと考えています。

参加者 今、防災のスライドを観ました。その際、交通渋滞をそれほど考えていないように思えます。東上線の電車事故が起きるたびに市役所通りが非常に渋滞します。東西連絡通路の推進といった踏切対策はどう考えていますか？  
もう一つ、市内循環バスの経路に元福岡は入ることは無理なのではないでしょうか？

市長 交通渋滞について災害時と平時を分けて考える必要があります。災害時について県道は非常に重要な動脈である。災害時に電車が脱線して踏切をふさいだ時、誰が誰の許可で車両をどかすのか不明確であるという点などについて課題として検討しています。東西連絡通路については過去に協議をしていましたが、合併後に止まってしまいました。そのため、実現することが難しくなりました。また、踏切対策ですが市の課題の優先順位として低くなってしまっており、対策実施は実現が難しいです。

参加者 東武東上線を高架線にしてもらうといった陳情を東武鉄道に働きかけるといった取り組みはしないのですか？

市長 東武鉄道と東上線沿線自治体の連絡協議会を作っておりまして、その中で高架化という要望も出しています。

循環バスについては今のままでは3千万円をかけているほどの効果が出ていないと考えています。そこで、公共交通全体のあり方を見直そうと考えて

います。たとえば、デマンド交通といった乗り合いタクシーのようなものを考えています。または、バスの大きさを小さくして本数を増やすといったことも考えています。あわせて65歳以上は無料になっていますが、今後はこのあり方も考えていきます。

受益者負担の話をさせていただきますが、公共施設は利用していない人の税金も使用して運営しています。かといって施設を利用していない人も災害時の避難拠点として利用する側面があります。公平平等について皆さんと考えていきたいと思えます。市役所は大事な課題に対し、対策をしていかなくてはなりません。皆さんからお預かりした税金を何に割り当てるかをしっかりと考えていきます。

事前にいくつかいただいた質問に答えさせていただきます。星和幼稚園と教育委員会が情報連携をとれているのかという点について、しっかりと連携を取ってやっています。

一人暮らしの要援護者については大規模災害の折りには市の持っている情報を開示させていただきます。

循環バスについては公共交通全体の見直しを図っています。

防災無線について、市の計画の中でデジタル化を進めています。増設についてはデジタル化に先行して進めて、防災訓練に間に合わせます。

日本無線の跡地について、開発の事前協議として正式にはきていませんが、イオンタウンという開発会社が店舗を作りたいという話がきています。あそこの土地は工業系の用途指定となっており、一定規模以上の商業系の利用をするという場合は見直しが必要です。その際、イオン建物内に公共施設を作ってもらえるよう要望を出しています。

避難所の川越市との相互利用については、埼玉県の市町村で防災協定を結んでいますので避難する際は最寄りの避難所に避難していただけます。

保育所の廃園について反対活動が行われています。ピラの中には保育所つぶしだとか書いていますが、何で来年の3月に廃園するのかの理由が書かれていません。保育所を廃園する本当の理由は耐震基準が足りないからです。法律で規定されている特定建築物で延べ床面積500平方メートル以上の2階建て建物については耐震化を図っていかなければなりません。ふじみ野市では子どもたちの安全の確保から、特定建築物に該当しない保育所でもすべて耐震診断を行いました。その結果、保育所の耐震の数値が非常に低いことが明らかになりました。そのため、廃園することになりました。市の方針としては公立の保育所を新設する計画はありません。それは国の方針にて官から民へという方針になっていますから、公立には補助金がでません。公立では1人しか預かれないところを、私立では3人預かれることですから、来年度新たに認可保育所が3園新設されますが、その後も認可保育所を増やしていくことを計画しています。皆さんの心情も理解しております。子どもが慣れ親しんだ場所から離れる辛さも理解しています。しかし、子供たちの命を預かる以上危険を回避するのが第一です。保育を取りやめるのではなくきちんとした保育所に移っていただくということです。ふじみ野市は子育て支援を重視していく方針です。反対運動によって皆さんに誤解が与えられないよ

う説明をさせていただきました。